

No.106

# さいばい ニュース

公益財団法人  
神奈川県栽培漁業協会

発行所 〒238-0237  
神奈川県三浦市三崎町  
城ヶ島養老子  
☎ 046(882)6980  
FAX 046(881)2233

## 平成30年度 事業計画

### 神奈川県下の水産資源維持増大のため マダイ・アブリ・クロダイ・マコガレイ種苗生産・放流

#### 要望の強いヒラメ種苗の供給も実施

##### 事業の内容

当協会は昭和六十一年「栽培漁業に関する事業を行うこと」で水産資源の維持増大を図り、漁業の振興と県民生活の向上に寄与することを目的に設立され、今年で三十二年目を迎えることとなりました。

今年度はマダイ、アブリ、クロダイ、マコガレイ種苗の生産を行い、東京湾並びに相模湾への放流、漁業協同組合を始めとする水産団体への供給を行います。更に、業界の強い要望であるヒラメなどの種苗を入手し放流します。これら当協会の中核事業である種苗生産・放流並びに供給事業を行うことにより神奈川県の水産資源の維持増大を図ります。

そして栽培漁業と当協会の活動について理解と協力が得られるよう漁業者はもとより広く神奈川県民に対し、東京湾並びに相模湾の海洋環境の保全と水産資源を豊かに保つ必要性を訴えるため普及啓発活動を行います。

当協会の運営については、漁業経営の不振と遊漁者数の減少等から主な収入源である漁業者負担金や遊漁船業者等協力金は減少傾向にあり、また基本財産の利息収入の減少等大変厳しい状況であります。

一方、種苗供給数も不安定ながら県内外の関係団体等の協力をいただき各種苗の増産を図る努力をします。特にサザエ種苗を県外水産関係団体等に積極的に配布していきます。

また、昨年に引き続き(公社)全国豊かな海づくり推進協会より負担金をいただき、他県と連携し広域にヒラメ種苗放流事業を展開します。

その一方、事業の執行については、経費の見直しを行い、効率的な協会運営に努めます。



カサゴ種苗を斡旋、小学生が放流

「栽培ニュース」(二千部/回、年二回)を作成し県

#### ②ヒラメ種苗放流事業

ア. 放流尾数	(全長60mm)	60,000尾
イ. 放流場所	東京湾域	20,000尾
	三浦半島西岸域	20,000尾
	西湘域	20,000尾

#### ②ヒラメ種苗放流事業

#### ①マダイ種苗放流事業

ア. 種苗生産尾数	(全長20mm)	700,000尾
イ. 放流尾数	(全長60mm)	300,000尾
ウ. 放流場所	東京湾域	100,000尾
	三浦半島西岸域	100,000尾
	西湘域	100,000尾

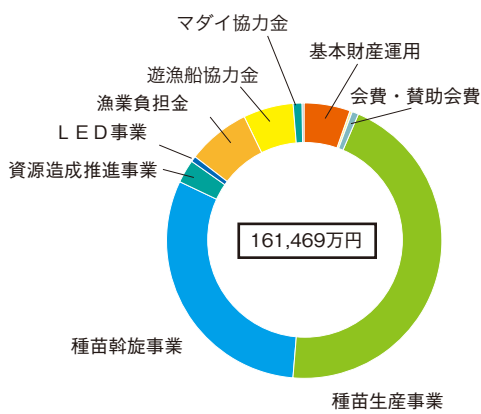
#### ①マダイ種苗放流事業

## 平成30年度予算

### 事業活動収入

科目	予算額(千円)
基本財産運用収入	8,618
特定資産運用収入	293
会費・賛助会費収入	900
種苗生産事業収入	73,251
種苗斡旋事業収入	45,036
資源造成推進事業	4,108
LED事業収入	1,392
漁業負担金収入	11,770
遊漁船協力金収入	9,851
マダイ協力金・募金	1,500
雑収入	210
計	161,469

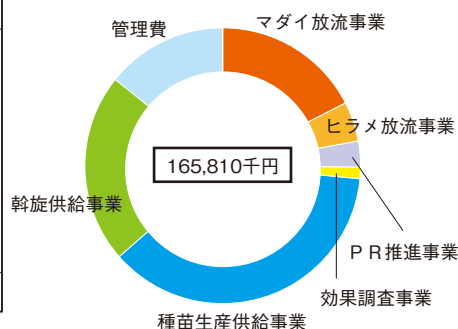
### 収入予算



### 事業活動支出

科目	予算額(千円)
マダイ放流事業支出	28,940
ヒラメ放流事業支出	7,745
PR推進事業支出	5,091
効果調査事業支出	2,238
種苗生産供給事業支出	61,310
斡旋供給事業支出	36,854
管理費支出	23,632
計	165,810

### 支出予算



内の漁業協同組合、水産団体、遊漁団体、教育及び公共機関等へ配布し当協会の広報活動を実施します。

②イベント推進事業  
各地の地域イベント等に参加し、漁業者をはじめ、広く一般県民に対し水産資源の保護、海洋環境の保全を強く訴え、栽培漁業の普及啓発を行います。

③調査事業  
①マダイ遊漁標本船調査  
県内のマダイ遊漁船の中から川崎市から湯河原町までのマダイ遊漁船に標本船調査を実施する。(標本船十二隻)  
※(種苗生産・放流・事業計画・表は二面に掲載しています)

## 公益財団法人 神奈川県栽培漁業協会役員改選

### 公益財団法人神奈川県栽培漁業協会 役員名簿

役職名	氏名	所属
理事長	太田 議	長井町漁業協同組合長
専務理事	今井 利為	(公財)神奈川県栽培漁業協会
理事	高橋 征人	神奈川県漁業協同組合連合会長
理事	黒川 忠雄	神奈川県遊漁船業協同組合理事長
理事	武井 正	(公財)相模湾水産振興事業団理事長
理事	久保寺 弘	横浜市漁業協同組合副組合長
理事	山田 正行	みうら漁業協同組合副組合長
理事	葉山 一郎	藤沢市漁業協同組合長
理事	徳江 好春	大磯二宮漁業協同組合副組合長

### 太田 議理事長を再選

今年度は当協会が公益財団法人に移行して六年目になり、任期満了による理事の改選の年です。そのため、相模湾地区、三浦地区、横須賀地区、互選しました。

また、各水産団体の推薦で六月十五日の評議員会で理事と監事が選任されました。そして、第二回の理事会で、太田議理事長と今井利為専務理事を再選しました。

### 平成30年度 種苗生産放流・幹旋供給計画

事業名	種苗名(サイズ)	30年度(計画)	29年度(実績)
生産供給	アワビ(5mm)	30,000個	30,000個
	”(25mm)	220,000個	208,400個
	”(30mm)	40,000個	31,680個
	サザエ(20mm)	350,000個	56,000個
	トコブシ(15mm)	50,000個	44,000個
	*トコブシ(大型)	20,000個	14,452個
	マダイ(60mm)	350,000尾	452,150尾
	クロダイ(60mm)	100,000尾	74,000尾
	マコガレイ(30mm)	25,000尾	38,000尾
	マコガレイ(40mm)	26,000尾	26,000尾
幹旋供給	ヒラメ(60mm)	0尾	11,000尾
	*ヒラメ(大型)	0尾	180尾
	メバル(60mm)	30,000尾	29,000尾
	カサゴ(60mm)	180,000尾	173,500尾
	トラフグ(50mm)	15,000尾	12,500尾
	カワハギ(50mm)	11,000尾	11,000尾



供給事業でヒラメ種苗放流

## 平成三十年度種苗生産・供給事業

### (4) 種苗生産・供給事業

#### ① 生産供給

アワビ、サザエ、トコブシ、マダイ、クロダイ、マコガレイ種苗を生産し、漁協をはじめとし水産団体に供給します。特に、マダカアワビ種苗を安定生産し、関係機関に供給できるように取組みます。

② 幹旋供給  
ヒラメ、カサゴ、メバル、トラフグなどの種苗を入手し漁業協同組合などの水産団体等へ供給します。

平成二十九年度決算を収支計算書に基づき報告します。平成二十九年度の事業活動収入の計は一億五千二百二十五万円でした。内訳としては、基本財産運用八十万四千円、特定資産運用四十二万五千円、賛助会費九十三万二千円、種苗生産事業六千五百六十六万四千円、LED試験百三十九万二千円、広域種資源造成支

平成二十九年度決算を収支計算書に基づき報告します。平成二十九年度の事業活動収入の計は一億五千二百二十五万円でした。内訳としては、基本財産運用八十万四千円、特定資産運用四十二万五千円、賛助会費九十三万二千円、種苗生産事業六千五百六十六万四千円、LED試験百三十九万二千円、広域種資源造成支

## 平成29年度 決算報告



マダイ種苗放流

円、PR推進事業三百九十一万五千円、効果調査事業百九十三万一千円、生産供給事業七百四十八万三千円、幹旋供給事業三千五百四十五万円の支出です。

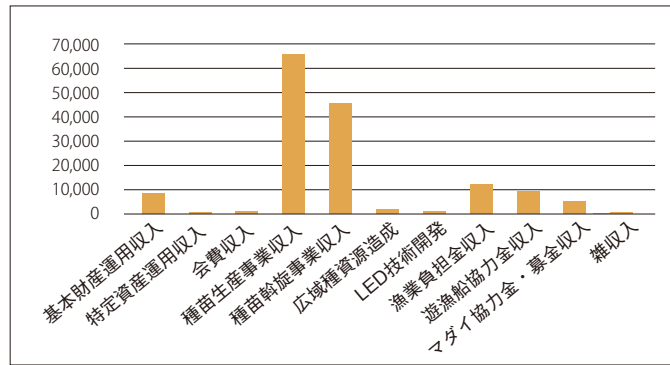
管理費は、二千四百三十六万五千円でした。事業活動支出と管理費を合計した事業活動支出計は、一億五千八百四十七万六千円でした。

援事業負担金二百八十八千円、漁業者等・漁協負担金千八百八十二万七千円、募金箱・百九万九千円、マダイ協力金四百三十万八千円、雑収入二十四万五千円の収入です。事業活動支出の計は、一億三千四百一十一万二千円でした。

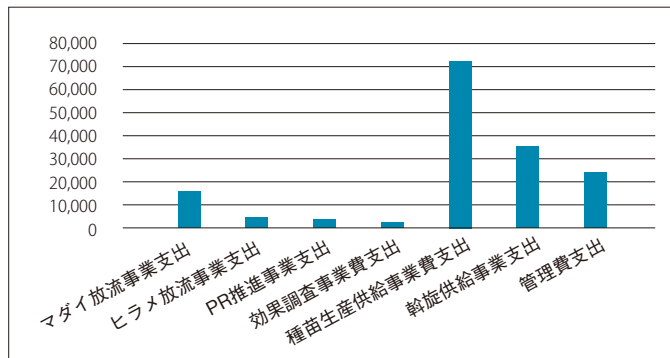
内訳としては、マダイ種苗放流事業費千六百九十一万八千円、ヒラメ放流事業費四百四十二万三千円、PR推進事業三百九十一万五千円、効果調査事業百九十三万一千円、生産供給事業七百四十八万三千円、幹旋供給事業三千五百四十五万円の支出です。

### \*養殖用種苗

### 支出-決算額(千円)



### 収入決算額(千円)



### 29年度決算 事業活動収入

科目	決算額(千円)
基本財産収入	8,104
特定資産収入	425
会費収入	932
種苗生産事業収入	65,663
種苗幹旋事業収入	45,969
広域種資源造成	2,108
LED技術開発	1,392
漁業負担金収入	11,827
遊漁船協力金収入	9,751
マダイ協力金・募金収入	5,407
雑収入	242
計	151,825

### 事業活動支出

科目	決算額(千円)
マダイ放流事業支出	16,918
ヒラメ放流事業支出	4,413
PR推進事業支出	3,915
効果調査事業費支出	1,931
種苗生産供給事業費支出	71,483
幹旋供給事業支出	35,450
管理費支出	24,365
計	158,476



ヒラメ種苗を放流する漁業者



子どもも放流

## 日本釣振興会神奈川県支部

### ヒラメ種苗五千尾放流

#### 小田和湾で漁業者

で、平均すると全長が約七センチに育った大きな稚魚です。

日本釣振興会神奈川県支部は六月三日、横須賀市長井町地先の海に合計五千尾のヒラメ種苗を放流しました。

ヒラメは種苗放流の効果が、漁獲が着実に増え、漁業者から種苗放流への要望が強い魚です。町漁協所属の漁業者に手渡し、小田和湾に放流しました。

### 荒崎で親子連れ

千尾は「地域の未来を考える会」が行った「荒崎海岸クリーンフェスタ2018」に参加した親子連れが海岸に放流しました。

放流に先立ち、当協会は今井利為専務は、「ヒラメは一年で二十五センチに育ち、二年後には食べることができま

す。大きくなって戻ってきてと声をかけて放流して下さい」と話しました。この後、三台の放流台を使い放流しました。

わが国の漁業生産の構造や就業構造を明らかにしようという漁業センサスは五年ごとに行われ、今年はその調査の年にあたります。漁村や水産物の流通・加工などの漁業を取り巻く実態と変化を総合的に把握することで、新しい水産基本計画に基づく水産行政施策の企画・立案・推進のための基礎資料を作成し提供する重要な調査です。今年十一月一日を調査基準日として「海面漁業調査」では漁業の種類、使用する漁船の規模、養殖も加えた漁業経営体の経営状況、個人経営体の世帯の状況及び世帯員の漁業就業日数などの状況を調べます。さらに、水産資源管理や漁場改善にどのように取り組んでいるか、そのための会合や集会の開催状況などにより漁業活性化をどのように目指しているかなども調査項目に上げられています。内水面漁業についても同様の調査を実施することになります。魚市場の施設及び取扱高、その他魚市場の現状を把握するために必要な事項も把握しようというものです。また、冷凍・冷蔵、水産加工場についても事業内容、従業員数、その他冷凍・冷蔵、水産加工場の現状を把握するために必要な事項を調査しようというものが「センサス」です。

### 前横浜市漁協組合長 小山紀雄さん旭日単光章受章



授章式で、小山ご夫妻

資源管理などの  
実績が評価され

そしてこの間、神奈川県漁業調整委員会委員、県水産審議会委員、県漁業信用基金協合理事長、県漁連副会長に就任し、神奈川県下水産業の振興に尽くしました。

その功績が認められ、平成十九年に神奈川県民功労者に選ばれ、二十年秋には、黄綬褒章を受章しています。また、二十四年には、英国のチャールズ皇太子殿下が設立した水産物の乱獲防止などを話し合う海洋プログラム会議の日本の漁業大使として招待され、「二操一休」などの資源管理について説明したこともありました。

平成二十七年まで横浜市漁協の組合長として、水産資源の維持管理などで大きな功績を残したと、同漁協前組合長の小山紀雄さんが、今年春の叙勲で旭日単光章を受章しました。  
小山さんは長年にわたる漁業に携わるとともに、

## 神奈川県水産課が説明会

### 三十年度主要施策・当初予算 資源管理型栽培漁業の手法開発へ



多くが参加した予算・事業説明会

神奈川県水産課は、三十年度主要施策および当初予算説明会を開催しました。出席者は、関係機関や漁業者など、約五十名が参加しました。

説明会では、水産課長が、三十年度の水産課の主要施策や、資源管理型栽培漁業の手法開発について説明しました。また、関係機関や漁業者からの質問にも丁寧に答えました。

説明会では、水産課長が、三十年度の水産課の主要施策や、資源管理型栽培漁業の手法開発について説明しました。また、関係機関や漁業者からの質問にも丁寧に答えました。

説明会では、水産課長が、三十年度の水産課の主要施策や、資源管理型栽培漁業の手法開発について説明しました。また、関係機関や漁業者からの質問にも丁寧に答えました。

説明会では、水産課長が、三十年度の水産課の主要施策や、資源管理型栽培漁業の手法開発について説明しました。また、関係機関や漁業者からの質問にも丁寧に答えました。

10月19日  
小田原市生涯学習センターで  
相模湾シンポジウム

開催されます。今回のシンポジウムのテーマは「相模湾における資源管理の現状・課題と今後の取り組みについて」です。

主催者あいさつに引き続き、午前午後午後にかけて漁業資源管理に関する基調講演、神奈川県下や他県の資源管理や課題について四つの話題が提示される予定です。

さらに、午後二時から(公財)相模湾水産振興事業団、小田原市が共催する第四十二回「相模湾の環境保全と水産振興」シンポジウムは、十月十九日午前九時三十分から午後三時まで、小田原市生涯学習センターホールで開催されます。

「(一社)水産海洋学会(公財)相模湾水産振興事業団、小田原市が共催する第四十二回「相模湾の環境保全と水産振興」シンポジウムは、十月十九日午前九時三十分から午後三時まで、小田原市生涯学習センターホールで開催されます。

「(一社)水産海洋学会(公財)相模湾水産振興事業団、小田原市が共催する第四十二回「相模湾の環境保全と水産振興」シンポジウムは、十月十九日午前九時三十分から午後三時まで、小田原市生涯学習センターホールで開催されます。

「(一社)水産海洋学会(公財)相模湾水産振興事業団、小田原市が共催する第四十二回「相模湾の環境保全と水産振興」シンポジウムは、十月十九日午前九時三十分から午後三時まで、小田原市生涯学習センターホールで開催されます。



利波所長

今年四月の人事異動で、神奈川県水産技術センターの所長に就任した利波之徳さんは、「神奈川県沿岸漁業は、首都圏の中にあるという地の利を生かせば、安定した収入を得ることができると期待があります。九百六十万人の大きな需要に応えるためにも、栽培漁業による資源の維持増大は不可欠です」と話しています。

利波さんは、自身の初業務の一つは、栽培漁業関連の補助事業で、マダイの放流効果の確認のため放流現場でマダイの数を数えたことでもありました。

その後、内水面関係の業務や水産改良普及員、水産課資源管理班副班長、内水面試験班主任研究員、水産課試験班主任研究員として初めて城ヶ島「勤務」になりました。

「就任して三か月で見ると、高知大学農学部栽培漁業科を卒業し、六一年に神奈川県水産課計画振興班に配属されました、当

網、刺網漁業者、遊漁船業者、シラス船曳網漁業者が資源管理の重要性や課題について、現場からの意見を発表した後、質疑応答を行うことになりました。

前回のシンポジウムでは、海洋環境を保全し、多様な魚介類を安定的に生産する漁業が持続する「里海」が重要であることを議論しました。今回は資源管理の現状・課題を学び、相模湾の今後の在り方を議論します。

時は、神奈川県が栽培漁業協会の設立に向けて全力で取り組んでいた時期でした。遊漁者に対して一律に協力金を課するという案があり、一般の釣り人も巻き込んで喧々諤々の議論をしていったそうです。

利波さん自身の初業務の一つは、栽培漁業関連の補助事業で、マダイの放流効果の確認のため放流現場でマダイの数を数えたことでもありました。

その後、内水面関係の業務や水産改良普及員、水産課資源管理班副班長、内水面試験班主任研究員、水産課試験班主任研究員として初めて城ヶ島「勤務」になりました。

「就任して三か月で見ると、高知大学農学部栽培漁業科を卒業し、六一年に神奈川県水産課計画振興班に配属されました、当

網、刺網漁業者、遊漁船業者、シラス船曳網漁業者が資源管理の重要性や課題について、現場からの意見を発表した後、質疑応答を行うことになりました。

前回のシンポジウムでは、海洋環境を保全し、多様な魚介類を安定的に生産する漁業が持続する「里海」が重要であることを議論しました。今回は資源管理の現状・課題を学び、相模湾の今後の在り方を議論します。

## 栽培漁業って何(23)

公益財団法人  
神奈川県栽培漁業協会  
専務理事 今井利為

仔魚は、沿岸の流れに沿って、内湾の浅場に運ばれていきます。約五十日間浮遊生活を辿り、動物プランクトンのコペポダの幼生、橈脚類などを摂り、体長三センチメートルくらいになってアマモ場周辺に定着します。夏、アマモ場では、ヨコエビ類、アミ類とより大型の餌生物へと食性を変化させ、成長します。

マダイの親魚の、餌は配合飼料やイワシを与えられています。餌に体色を赤くするカロチノイド系のアスタキサンチンが含まれていませんので、黒いマダイとなってしまう。

秋、体長が十一センチメートルを越えるころから、水深二十メートルくらいのところへ移動します。このころから、クモヒトデ、エビの仲間などの底生生物を摂ります。冬に水深六十メートル付近まで移動します。



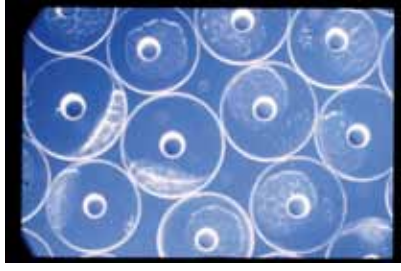
放流マダイの移動

発生  
生み出された卵の大きさは〇・二ミリメートルで、形は真球です。

放流マダイの移動  
神奈川県では、体長六センチメートルのマダイの稚魚を東京湾、相模湾の十数か所に一箇所あたり五万尾から十万尾を放流しています。

放流マダイの移動  
神奈川県では、体長六センチメートルのマダイの稚魚を東京湾、相模湾の十数か所に一箇所あたり五万尾から十万尾を放流しています。

放流マダイの移動  
神奈川県では、体長六センチメートルのマダイの稚魚を東京湾、相模湾の十数か所に一箇所あたり五万尾から十万尾を放流しています。



球の中には、一つの油球と卵黄があり、浮遊し発生が進み、二日たつとふ化します。

放流マダイの移動  
神奈川県では、体長六センチメートルのマダイの稚魚を東京湾、相模湾の十数か所に一箇所あたり五万尾から十万尾を放流しています。

放流マダイの移動  
神奈川県では、体長六センチメートルのマダイの稚魚を東京湾、相模湾の十数か所に一箇所あたり五万尾から十万尾を放流しています。

発生からふ化後しばらくは、卵黄の栄養で成長し、口が開き、三日後から餌を摂り始めます。

放流マダイの移動  
神奈川県では、体長六センチメートルのマダイの稚魚を東京湾、相模湾の十数か所に一箇所あたり五万尾から十万尾を放流しています。

放流マダイの移動  
神奈川県では、体長六センチメートルのマダイの稚魚を東京湾、相模湾の十数か所に一箇所あたり五万尾から十万尾を放流しています。

放流マダイの移動  
神奈川県では、体長六センチメートルのマダイの稚魚を東京湾、相模湾の十数か所に一箇所あたり五万尾から十万尾を放流しています。

ふ化から藻場へ  
春、ふ化したマダイの

放流マダイの移動  
神奈川県では、体長六センチメートルのマダイの稚魚を東京湾、相模湾の十数か所に一箇所あたり五万尾から十万尾を放流しています。

放流マダイの移動  
神奈川県では、体長六センチメートルのマダイの稚魚を東京湾、相模湾の十数か所に一箇所あたり五万尾から十万尾を放流しています。

放流マダイの移動  
神奈川県では、体長六センチメートルのマダイの稚魚を東京湾、相模湾の十数か所に一箇所あたり五万尾から十万尾を放流しています。

神奈川県漁港めぐり・・・シリーズ④

# 第1種「柴漁港」

## —知名度高い江戸前魚の水揚げ—



江戸前魚の水揚げ拠点、柴漁港

東京湾で江戸前の魚介類を獲得する小型底引網漁船の拠点の港である「柴漁港」は、大都市の中の漁港として横浜市をはじめとした首都圏の消費者に鮮度抜群の水産物を供給する港として大きな役割を果たしています。



小柴どんぶりや

この江戸前の魚介類は、毎週日曜日と祝日に営業している柴漁港内出荷所横にある「柴漁港名産直売所」で購入できます。また、取れたての漁獲物を食材にして食事を提供しているのが「小柴どんぶりや」です。特に、井から大きくはみ出したアナゴの天ぷらが中心の「小柴丼」は多くのお客さんが注文する「超人気の丼です。



江戸前魚が買えると人気の直売所



キャベツはサザエのエサに有用

当協会では、磯焼けの影響で貝類の餌料となる海藻が入手困難になったため、三年前に地元特産のキャベツを餌料とした貝類の中間育成試験を始めた。今までの結果で、アワビとサザエについて、

### 新たな飼育技術開発に向けて

当協会では、磯焼けの影響で貝類の餌料となる海藻が入手困難になったため、三年前に地元特産のキャベツを餌料とした貝類の中間育成試験を始めた。今までの結果で、アワビとサザエについて、

### 資源増大に役立てて 栽培漁業寄付

三浦市・小網代のリビエラリゾートシーボニアは五月二十日、「キスマスター12018」を行いました。六十六艇のヨットやモーターボートが参加し、参加費の一部、五万九千円を当協会に寄付してくれました。

三浦市松輪の棒面丸は今年も「ラブラブマダイ」釣りにイベントの表彰式で当協会に五万円を寄付してくれました。十年以上前から、棒面丸はマダイの釣り大会を行い、釣りの参加費の一部を積み立て、「マダイ資源の増大に役立てて」と寄付してくれています。

なお、二〇一七年の優勝者は志村仁史さんで、昨年九月に最高体重八・〇二キロもの大物マダイを釣り揚げて表彰されました。



阪西職員



鈴木職員

### ◆新職員紹介◆

平成三十年度、四月一日付けで当協会は、鈴木奨馬、阪西竜次郎の二名の職員を採用しました。当協会は、「水産資源の維持増大を図り、漁業の振興と神奈川県民の生活の向上に寄与する」ことを目的としています。

#### 鈴木職員

今年の四月に栽培協会に採用されました鈴木奨馬です。自分は、今は魚の種苗生産の作業補助担当としての仕事を行っています。

#### 阪西職員

協会の職員となってから三カ月が過ぎましたが、仕事にも慣れてきました。上の方々の動きを

この目的を達成するためにも、協会人員の拡充が不可欠となり、四月から二名に働いてもらうことになりました。

今後、二職員は当協会水産種苗の生産、配布、放流、斡旋などに関わる仕事をを行います。二名の職員は次のように抱負を述べていますので、関係者の皆様のご指導をお願いいたします。

#### 鈴木職員

協会の職員となり、三カ月がたちましたが、まだまだ覚えなければなりませんし、自分を改善しなければならぬ点もありません。

#### 阪西職員

協会の職員となり、三カ月がたちましたが、まだまだ覚えなければなりませんし、自分を改善しなければならぬ点もありません。



標識の付いたヒラメ

### ヒラメ稚魚 標識放流

再捕したら報告をお願いします

太平洋南区栽培漁業推進協議会では、ヒラメの広域資源の造成を行っています。

特に、放流した種苗が県を越え成長し移動しているか、未だ、明確に分かっていません。

そこで、平成二十六年からヒラメの種苗の鰭を切除して放流し、その後の再捕状況を追跡する調査を続けています。

今年度は、横須賀市東部漁業協同組合と長井町漁業協同組合にお願いし、それぞれ五百匹のヒラメの鰭(上部写真を参照)を切除した種苗を七月中旬に放流する予定です。

また、千葉県でも鰭を切除して放流しますが、切除して放流しますが、千葉県は後部の鰭を切除してあります。さらに、静岡県では、迷子札を装着して放流します。

標識したヒラメを再捕したら一、再捕年月日、二、再捕場所、三、標識の種類とその位置、四再捕者の氏名、住所、電話番号を、公益財団法人神奈川県栽培漁業協会にご報告をお願いいたします。

▽再捕報告連絡先  
電話番号 〇四六八八二一七九四八  
FAX番号 〇四六八八一一二二三三